

令和6年度 第3回 多摩六都科学館組合事業評価委員会 会議録	
日 時	令和7年2月19日（水）午前9時58分から午後0時20分まで
開催場所	多摩六都科学館2階201会議室
次 第	<p>1 開会の挨拶</p> <p>2 議題</p> <p>(1) 中期目標及び評価指標の検討について</p> <p>①これまでの検討状況と現況の課題について（報告・協議）</p> <p>②課題に対する対応策について（協議）</p> <p>③解決策・とりまとめ方などの方針について（協議）</p> <p>(2) 今後の評価活動のスケジュールについて</p> <p>(3) その他</p> <p>3 閉会</p>
出席者	<p>委員会：縣秀彦委員長、佐々木亨副委員長、佐々木秀彦委員、 岩穴口康次委員、田原三保子委員</p> <p>多摩六都科学館組合事務局：保谷事務局長、豊田管理課長、小菊主査、 内木主任、秋山主任</p> <p>事業評価等支援業務受託者：有限会社プランニング・ラボ（村井代表）</p> <p>指定管理者：高柳館長、福島GM、伊藤総務GL、矢野みらい創造GL、 石井アテンダントGL、齋藤天文GL、湯浅インタープリターGL、成田理工GL、原自然GL</p>
決定事項	<ul style="list-style-type: none"> 令和7年3月中に「多摩六都科学館 第3次基本計画」に掲げる将来像1～4の中期目標を決める会議を組合及び指定管理者にて行う。 令和7年3月末までに中期目標を決定し、事業評価委員に電子メールにて報告をする。 今後のスケジュール案を事業評価委員に電子メールにて共有をする。
記録方法	会議内容の要点記録
資料	<p>1_現在検討中資料 参考1 【折衷案】事業総括シート（令和6年度）</p> <p>1_現在検討中資料 参考2 【指定管理者】事業総括シート（令和6年度）</p> <p>1_現在検討中資料 参考3 【指定管理者】令和6年度PDCAシート</p> <p>1_現在検討中資料 参考4 【多摩六都科学館組合】事業総括シート（令和6年度～10年度）</p> <p>1_現在検討中資料 参考5 【多摩六都科学館組合】令和6年度PDCAシート</p> <p>1_現在検討中資料 参考6 新たな事業評価構築に向けて</p> <p>1_現在検討中資料 参考7 多摩六都科学館 事業評価の取組方針</p>

	1_現在検討中資料 参考 8 多摩六都科学館事業評価活動 2024 工程表 2_前回委員会資料 参考 9 「多摩六都科学館 第3次基本計画」計画 体系→中期目標・指標検討たたき台-1、 たたき台-2 2_前回委員会資料 参考 10 「第3次基本計画」事業スケジュール案 2_前回委員会資料 参考 11 令和6年度第2回多摩六都科学館組合 事業評価委員会 会議録
--	---

凡例 発言者の略記（委：事業評価委員、館：高柳館長、組：多摩六都科学館組合事務局、指：指定管理者）

以下会議概要

次第1 開会の挨拶

多摩六都科学館組合事務局（以下「組合」という。）から開会の挨拶及び本日の議題の進め方について説明が行われた。

組：今回の委員会について

- ・令和7年2月6日の組合、指定管理者及び事業評価等支援業務受託者の会議（以下「三者会議」という。）で、組合及び指定管理者の中期目標案が異なる視点からの検討結果となり、不本意ながら一案に取りまとめができず、本日に至ってしまった。
- ・当初予定していた議題（中期目標及び評価指標の決定。）を変更し、現状を報告した上で、課題解決に向けた対応策を現場と共に検討・協議する場とした。
- ・計画に基づく多摩六都科学館（以下「科学館」という。）の活動に対する適切な事業評価を進めるため、取りまとめの方針を決定する。

次第2 議題

（1）中期目標及び評価指標の検討について

①これまでの検討状況と現況の課題について（報告・協議）

組：中期目標・評価指標検討の経緯（参考6）について説明

- ・事業評価委員（以下「委員」という。）から具体的な事例や進め方についてレクチャーを受けながら検討してきた。
- ・組合及び指定管理者で、事業総括シート（中期目標管理）及びPDCAシート（単年度目標管理）により事業の成果や進捗管理等を検証する方法を導入することとした。
- ・組合及び指定管理者でそれぞれ事業総括シートの作成を行い、中期目標と評

価指標案について三者会議で協議を行った。

- ・三者会議で意見交換をしながら、第3次基本計画（以下「計画」という。）の目標達成に向けた中期目標・評価指標案を検討・決定し、今回の事業評価委員会（以下「委員会」という。）で報告をする予定だったが、決定まで至らなかった。

組合の事業総括シート（参考4）について説明

- ・江戸東京たてもの園の事例を参考に、重点事業と中期目標を3つ程度にまとめた。令和9年の中期事業評価、令和10年度の前期振り返り・事業計画ローリングを考慮し、作成している。
- ・計画の将来像、10年後のアウトカム及び指定管理者からの提案書を参考にした。

組合のPDCAシート（参考5）について説明

- ・組合の事務事業の体系化を行い、各担当業務の役割について認識を深めることを目的としている。

指：指定管理者から事業総括シート及びPDCAシート作成の経緯について説明

事業総括シート及びPDCAシート作成の経緯

- ・自分達の業務を把握するために、PDCAシートから作成を行った。

事業評価の課題

- ・各事業は個々に成果を上げているものの、全体としての一貫性や連携が不足している。
- ・PDCAシートを書き始めたときに、実施方針が統一されておらず、目標が定まらないため、事業総括シートの必要性を認識した。しかし、組合とは擦り合わせができておらず、書き方なども定まっていないという課題がでた。

事業総括シート（参考2）について説明

- ・PDCAシートを基に作成。組合及び指定管理者は同時並行的に作成しており、その後、十分な協議をとることができなかつた。

PDCAシート（参考3）について説明

- ・現場の実態を反映させたが、以下の課題等が明らかとなつた。

課題

- ・事業総括シートとPDCAシートの役割分担や連携方法の理解が不十分である。
- ・科学館の改善に資する目標設定の必要性を感じる。
- ・事業総括シートが内部向けの内容に偏っており、外部への発信を意識した記述が不足している。
- ・組合及び指定管理者で共通の5年後の姿を共有し、優先順位や目標水準について共通認識を持つ必要性がある。

- ・調査・研究や科学館機能など、リソース制約下での目標設定のあり方を考える必要性がある。

事業総括シートにおける目標の区分（委員への相談）

- ・科学館全体の中期目標に対し、指定管理者としての目標及び組合としての目標を区分して記述すべきか。
- ・評価時に共同で評価されるのか、別々に評価されるのかを明確にする必要性はあるか。

委：委員からの助言

各委員から以下の点の助言（意見）があった。

事業評価シート及びPDCAシートの問題点

- ・事業総括シートの内容は重点戦略（10年間の基本方針）と個別事業（PDCA）の連携が不十分で、具体的な目標設定ができていない。
- ・指定管理者が提示する中期目標と単年度目標が、日々の事業との関連性が不明確になっている。
- ・5年間で何を達成するかという目標について、関係者間の共通理解が不足している。

指定管理者制度における提案書の重要性

- ・指定管理者制度において重要なのは提案書であり、提案内容に基づいて業務が遂行されるべきである。
- ・5年後には提案内容がきちんと実行されたかどうかが評価されるため、提案書の内容を軽視してはならない。

中期目標策定及び事業総括シート作成のポイント

- ・中期目標を策定する際は、重点戦略と指定管理者の提案書との整合性を図る必要がある。
- ・5年間で達成すべき目標や取り組むべきテーマ、事業の数などを具体的に記述する。
- ・事業総括シートには、基盤となる重要な事項（資金調達、施設改修など）を記載する。
- ・複雑化を避け、重要なポイントに絞って記述する。

ワークショップ形式での目標設定

- ・将来像ごとにワークショップを実施してはどうか。
- ・現場の意見や指定管理者からの提案を基に、5年間で達成すべき具体的な目標を論理的に設定し、目標を可能な限り数値で示してはどうか。

指定管理者及び組合の役割分担

- ・基本的な運用は、提案書に基づき指定管理者が行うことが多いため、指定管

理者の評価が中心となる。

- ・組合が主体的に行うべき項目については、組合が自己評価を行い、外部評価を受ければよい。
- ・PDCA シートを作成する際は、組合が設置者として行うべき事務を明確にしておくことで、業務が円滑に進めやすい。

議論と協力の重要性

- ・指定管理者と組合が遠慮なく議論し、課題解決に取り組むことが重要。
- ・困った場合は、計画、法令、条例などの原則に立ち返り、原点を見つめ直す。
- ・広報などお互いが協働できる部分は協力して進める。
- ・互いの責任範囲を明確にし、遠慮なく意見を言い合うことが重要。

組：組合からの提案

- ・施設の老朽化が課題であり、展示やプラネタリウムのリニューアルも視野に入れる必要がある。これらの点は、組合が評価を受ける際の重要な項目となる。
- ・組合及び指定管理者で書き方を分けるという点については評価指標をそれぞれ立てることで、より具体的な役割分担を反映できるのではないか。
- ・目標設定においては明確に区分されていない部分も、評価指標で役割内容を盛り込むことで対応可能だと考えられる。

② 課題に対する対応策について（協議）

委員から将来像ごとにワークショップを開催し、中期目標等を設定するためのワークショップを開催してはどうかという助言をいただく。

③ 解決策・とりまとめ方などの方針について（協議）

- ・中期目標の設定は、令和7年3月末までにとりまとめ、委員会に提示することを委員会の総意として組合・指定管理者両者に要請が出される。
- ・組合及び指定管理者はこの内容を承諾した。
- ・とりまとめ方についてはメールで委員に報告をし、必要に応じてオンラインで会議を行うこととした。

「議題（1）」を終えた所で、委員長から指定管理者及び館長へ共通理解を図るためにここまで会議の感想や事業総括シート及びPDCA シートを作成する上で感じたことや課題等に関する発言の依頼があった。

指：感想

- ・委員からの意見を真摯に受け止め、改善に繋げる。

- ・個々の活動が評価や体系化に繋がり、組織全体の成果に貢献できるようなくみづくりが重要だと感じた。
- ・関係者間の対話を促進し、課題解決に向けた協力体制を構築する必要がある。
- ・PDCA シートの導入により、グループメンバー全員で目標を共有し、考える機会を得た。

館：コメント

- ・浜松科学館の事例から、子供の頃の体験が将来に影響を与えることを再認識した。
- ・科学館も、未来を担う人材育成に貢献できるような存在を目指したい。
- ・組織を維持し、役割を継続することの難しさを認識。
- ・自身の役割を模索しつつ、科学館の活動に貢献したいと考えている。
- ・現状をピンチと捉え、チャンスに変えたいと考えている。
- ・委員の発言を聞き、自身の経験を生かして貢献できることを模索しているので助言をいただきたい。

④その他 各委員から現場への助言など

委①：コメント

- ・NPO 法成立から 25 年が経過し、市民活動団体の高齢化と新規会員の減少が共通の課題となっている。社会の変化により、市民活動に携わる余裕のある人が減少している。このような状態を改善するために、あすぴあ（小平市民活動支援センター）では「市民活動の脱皮」を提案し、事業計画の基本としている。30 年という節目に、組織、社会、人が変化していることを考慮し、頭を切り替えるきっかけの年にして、科学館の皆さんも是非頑張ってほしい。
- ・他の科学館を見学することで、息抜きになるだけでなく、自分たちの価値を再認識できる。時間があれば、積極的に他の施設を見学することを推奨する。

委②：コメント

- ・現場がかわいそうなので現場をもっと大事にしてほしい。
- ・指定管理者制度に切り替わってから驚くべき成果を出しているのは理解している。
- ・館長には 5 年間何をしていくかの優先順位について、現場が迷った際に助言をしてほしい。現場にとって一番ありがたいのは、将来を見据えたアドバイスである。

委③：コメント

- ・会議に人が集まらない問題は大学でも同様である。不参加者への情報伝達方

法として、ZOOMでの録画と文字起こしが有効。

- ・参加者・不参加者に関わらず、後から内容を共有することで意識共有が可能。

委④：コメント

- ・現場からの相談窓口は複数あるものの、マネジメント層間のコミュニケーション不足により、現場が混乱し、市民への影響も懸念される。
- ・組合及び指定管理者間で目標のズレが潜在的に存在し、過去にも同様の問題があった可能性があるので、整理する必要がある。
- ・マネジメント層がバラバラに動くと、現場が疲弊し、組織全体の弱体化につながってしまう。
- ・体制や制度の問題を洗い出し、マネジメント層が連携して動けるように改善する必要がある。
- ・マネジメント層が現場をサポートし、安心して相談できる体制を構築してほしい。
- ・今回の問題を教訓に、潜在的な課題を洗い出し、次のステップにつなげ、より強力な体制を構築し、現場が安心して業務に取り組めるようにしてほしい。

委⑤：コメント

- ・国の財政難により、大学や研究機関の人事費・経費が削減されている。国立天文台でも同様の状況が発生しており、施設公開事業の継続が危ぶまれている。ただし、現状では事業閉鎖はしない方針。
- ・科学館も財政状況が悪化する可能性があり、対策が必要である。
- ・市民の支持を得られ、一体化している科学館が生き残っている。
- ・専門職がいない状況での運営は非常に厳しいので、知恵を絞る必要がある。
- ・皆さんには自信と経験と未来への熱意があるので、入館者数が増加し、安定した状況を築いている。
- ・財政問題への対応が急務なので、知恵を絞っていただきたい。
- ・5年後を見据え、市民に愛される科学館となるための財政計画を検討してほしい。

(2) 今後の評価活動のスケジュールについて

組合から、今後のスケジュールと事業評価に関する説明が行われた。

組： 今後のスケジュールについて説明

今後の評価活動のスケジュール

- ・3月末までに組合と指定管理者で将来像に関するワークショップを4回開

催する。

- ・ワークショップの結果はメールで委員に共有し、意見交換を行う。
- ・来年度は、6月下旬から7月中旬に委員会を開催し、中期目標等を事業総括シートにまとめ、事業評価報告を行う。
- ・スケジュールは若干変更されているので、修正版を改めて委員に送付する。

市民意見の反映について

- ・問題解決型の市民意見交換会（テーマ：SNSの活用について）を実施し、ジニアボランティアの協力を得る。
- ・科学館の成果の見える化として、継続的なユーザーへのヒアリングや動画作成を行い、情報発信する。これらの取組は、今年度3月中に実施予定。

(3) その他

特に協議事項はなし。

次第3 閉会